



学生が自ら 地域で学ぶ

近江楽座

OHMI RAKUZA

START BOOK

SDGsの達成に向けた「地域教育」

SDGsについて

2015年の国連サミットで採択された世界共通の目標です。限られた地球上の資源を使い果たすことなく継続的に利用し、誰一人取り残すことなく、環境・社会・経済におけるさまざまな課題の関係性にも考慮して、2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットが設定されています。



／ CHECK! ／

近江楽座公式サイト

各プロジェクトの最新情報や楽座人物図鑑など近江楽座についての情報が充実しています。



スマホの方はこちら！

<https://ohmirakuza.net>





OHMI RAKUZA

近江楽座

近江楽座は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」を

モットーに掲げる滋賀県立大学の学生教育プログラムです。

学生たちは地域の方々と一緒に活動することで、

学内では学べないことを体験します。

学生らしさを生かして地域に学び、育ち、貢献する。

そんな学びの場づくりを目指しています。



POINT 1 学生主体で活動

学生ならではの視点で地域の課題や魅力を見出し、プロジェクトを発足。厳正な審査で採択されたプロジェクトは、経費や教育指導等の支援のもと活動します。

POINT 2 幅広い分野の地域課題

これまで培ってきたノウハウや地域とのつながりを生かし、さまざまな分野の地域課題に取り組んでいます。

活動テーマ例

- 子ども
- 教育
- 福祉
- 健康
- 生活文化
- 伝統
- 調査
- 環境
- 防災
- 復興支援
- まちづくり
- ものづくり

POINT 3 多様な活動形態 目的や内容など、多様な地域活動に合わせたプロジェクトのタイプがあります。

▶ Aプロジェクト／学生主体型プロジェクト

SDGsの視点も踏まえ「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動を募集します。

新規プロジェクト・継続プロジェクト

19年間で延べ426のプロジェクトが活動しています。

Sプロジェクト

活動資金を必要とせず、これまでの実績をもとにステップアップを目指すプロジェクト。



あかりんちゅ

寺院などからやむなく廃棄されることになったろうそくを回収し、それを再利用したキャンドルの販売や、キャンドル作り教室、キャンドルナイトを行なっています。また福祉作業所にティールイトキャンドルの製造を委託し、福祉に貢献しています。



地域博物館プロジェクト

滋賀県内のさまざまな地域で古文書や民具などを調査・保存したり、地域文化財を活用した博物館を作るお手伝いをしています。

▶ Bプロジェクト／地域協働型プロジェクト

自治体や企業、団体などから依頼のあった課題の中で、学生が中心となって取り組むことがふさわしいものについて、学生主体のグループを募集。指導教員と地域共生センターおよび依頼先とが協働でプロジェクトに取り組みます。

POINT 4 大学発地域貢献の先進的な取組として高く評価

とよさと快蔵プロジェクトが公益財団法人 電通育英会からの助成事業に選出され、ボランティアサークルHarmonyが京都新聞福祉奨励賞を受賞するなど、近江楽座の取組は学外からも高く評価されています。



とよさと快蔵プロジェクト

公益財団法人電通育英会の助成決定通知を受ける



政所茶レン茶

お茶づくりを体験し、政所茶の魅力を全国に発信

近江楽座プロジェクト [2022年度]

01	あかりんちゅ エコでスローな夜を	
02	滋賀県大生き物研究会 水辺の多様な生き物に触れる	詳しくは P.03
03	とよさと快蔵プロジェクト 空き家を改修してまちづくりをしよう!	
04	ボランティアサークルHarmony モットーは「無理なく、楽しく!」	詳しくは P.04
05	スチューデント・キュレーターズ 文化財を守る学生学芸員	
06	フラワーエネルギー「なの・わり」 資源循環型社会のモデル化	

07	廃棄物バスターズ 廃プラだって生かせば資源!!	詳しくは P.05
08	政所茶レン茶 チャレンジを楽しむ	
09	BAMBOO HOUSE PROJECT 生きる自然は地域を育む	詳しくは P.06
10	とよさだプロジェクト ひと刈りいこうぜ!(野菜)	
11	竹林GAKU 竹の魅力を発見!発信していきます!!	詳しくは P.07
12	リソース 日夏でひかりかがやけ!	

13	かみおかべ古民家活用計画-SLEEPING BEAUTY- 地域よし×学生よし×家主よし	
14	おとくらプロジェクト 高宮の町に新しい風を吹かせましょう	
15	未来看護塾 地域に住む方に健康と福祉を!	詳しくは P.08
16	沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト 価値と愛あふれる休憩所を	
17	Taga-Town-Project 多賀町の魅力を発見、発信、発想!	
18	座・沖島 沖島でまなぶ・まじわる・ささえる	

19	男鬼プロジェクト 里山の原風景をつむぐ、おおりびと。	
20	県大ラジオ部 県大と地域をつなげるラジオ	
21	CEBU PARIAN PROJECT Jesuit Houseの地域の歴史・文化・伝統・環境の継承	
B	近江楽座学生委員会 学生が住み、生かして、つながりを広げる	



内湖の再生と 地域の水辺コーディネート

(滋賀県大生き物研究会)

活動開始年：2011年

メンバー：27名

活動場所：学内／彦根市内 他

関係団体：滋賀県水産課／彦根市男女共同参画センター／彦根市清崎町



水辺の多様な生き物に触れる

滋賀県立大学内外に生息する生物調査・採集を行い、害のある外来生物については駆除を行っています。また、地域の方々に生物を身近に感じてもらうために観察会などの機会を提供したり、高校生にはSDGsについて学ぶ高大連携授業も行っています。

地域の声

彦根市男女共同参画センター「ウイズ」 鑑継 朱里 さん

親子対象の夏のイベントでは、生き物研究会さんのご協力のもと開催でき、大変うれしく思います。講座では、顕微鏡の使い方や微生物などをわかりやすく解説していただき、改めて興味や知識を深める貴重な体験ができたと思います。また、プランクトンを顕微鏡で発見したときの嬉しそうな子どもたちの顔を見ることができ、主催者としても大変うれしい出来事でした。ありがとうございました。

学生の声

畑中 顕 さん
(環境科学部 環境生態学科 4回生)

動植物を問わずさまざまな生き物について、広く知識を得ることができました。その中で、ある特定の生き物について知るためには、その生き物を取り囲むほかの生物についても知ることが重要であると実感しました。興味を持ってこなかった生物についても学んでいこうと思います。



京都新聞福祉奨励賞を受賞

障がい児・者、 自立支援共生社会プロジェクト (ボランティアサークルHarmony)

活動開始年：2004年

メンバー：20名

活動場所：学内他

関係団体：NPO法人障害者の就労と余暇を考える会メロディー



モットーは「無理なく、楽しく！」

活動は、“障がい児・者の就労と自立の支援”と“障がい児・者とその家族の余暇の支援”です。子どもたちが、将来、社会に出るために必要となってくる社会性やコミュニケーション能力を向上させるため、さまざまな体験活動やイベントを実施しています。

地域の声

メロディー 原由希子 さん

ハーモニーの学生さんは、押し付けたり強要したりすることなく、側で見守ってくれているので、いつも安心して活動に参加させてもらっています。今後のハーモニーに期待する事は、福祉に興味を持ってくれる人が一人でも増えてくれる事です。若い学生さんがハーモニーの活動に参加する事で、少しでも福祉について考えるきっかけになってくれたら、障害を持つ子の親として、こんなに嬉しい事はないと思っています。

学生の声

高田 夏千 さん
(環境科学部 生物資源管理学科 2回生)

ハーモニーの活動を通して、今まで関わったことのない障害を持った方と接することが多くなりました。それぞれの性格や障害の重度が異なるため、彼ら一人ひとりに合うように接し方や声のかけ方を変えることが非常に大切だということを学びました。この1年間の活動経験を生かして、来年度の活動も頑張っていきたいと思っています。





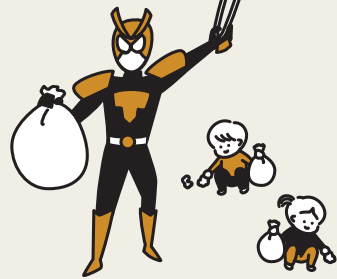
廃棄物バスターズ

活動開始年：2005年

メンバー：20名

活動場所：彦根市内 他

関係団体：社会福祉法人いしづみ会／HIKONEキレイ隊



廃プラだって生かせば資源!!

地域の各種イベントに参加して清掃活動やゴミの実態調査を行なっています。また、小学生から一般の方までを対象に環境問題に対する教育・啓発活動等も行ない、さまざまな企業や各種団体他とともに活動するプロジェクトです。

地域の声

株式会社Plaats 代表 中嶋 元 さん

クリーンアップ作戦では、自分たちだけの価値観で動くのではなく、近隣の住民の方たちを巻き込むことの重要性を意識して活動しているのが素晴らしいと感じました。ゴミを集めつつデータも記録されており、単なる清掃パフォーマンスとは異なる、理系大学の強みを生かした活動をされている点、また、高分子科学の専門知識を生かして、市民の教育活動にも熱心に取り組まれている事にも感銘を受けました。

学生の声

長田 直也 さん
(工学研究科 材料科学専攻 修士2年)

街に出て清掃活動をしたり、小学生と交流したり、環境問題に取り組んでいる企業や団体とともに知識を深めたりと研究室にこもっているだけではできない体験をすることができました。メンバーと役割分担をして互いに協力し合いながら活動する大切さを痛感しました。今後社会に出てからもチームで助け合うことを忘れないようにしたいと思います。



BAMBOO HOUSE PROJECT

活動開始年：2016年

メンバー：45名

活動場所：滋賀県湖南市菩提寺

関係団体：菩提寺まちづくり協議会／甲西北中学校



生きる自然は地域を育む

滋賀県湖南市菩提寺区の放置竹林を地域の方々と学生で伐採・整備を行なっています。その際に発生する竹廃材は、建築物や遊具等に再利用し、子どもたちや地域の方々が集まる憩いの場となっています。

地域の声

菩提寺まちづくり協議会
地域活性化委員会 委員長 浅井基義 さん

メンバーや代表の方の交代も、活動が維持できていて継承は素晴らしいものです。整備を始めた当初は、地元の方の関心も少ないようでしたが、管理外の竹林の整備も少しずつ行っているうちに、地元の方からも感謝されるようになってきました。ほぼ毎日、地元の子もたちが竹林に遊びに来ていて、休みの日には家族で遊びに来ているところもよく見かけます。これからも皆様のご協力よろしくお願いします。

学生の声

古田 悠馬 さん
(環境科学部 環境建築デザイン学科 3年生)

実際に起きている環境問題に対して学生の間から主体的に関わることができ、座学では学べないことを学ぶ貴重な経験をさせていただいたと思います。また、長年に渡って知識や技術、地域との関係が継承されているのは、理念が確立しているからであり、理想的な学生プロジェクトの一つではないかと感じました。





犬上川竹林整備プロジェクト (竹林GAKU)

活動開始年：2021年

メンバー：29名

活動場所：犬上川／彦根市／滋賀県内

関係団体：犬上川開出今地区竹林愛護会 他



竹の魅力を発見！発信していきます！！

大学の北を流れる犬上川の放置竹林を伐採し、整備・清掃を行っています。伐採した竹の一部は、竹あかりや門松などに生まれ変わらせます。竹あかりを使ったイベントでは県内を優しく灯し、門松づくりのワークショップでは、竹の魅力を幅広い方々に伝えました。

地域の声

YOBISHIプロジェクト 龍見 茂登子 さん

ワークショップでは、皆さんとても素敵な作品を仕上げ、参加者の満足度が大変高いイベントとなりました。住民の方々も、地域を学びかけを探しており、このような企画に参加したいと望む方が多いことにも気づくイベントでした。私達地域団体も学生とともに学べる機会が得られたことに感謝しております。学生さんが地域に関わってくださること、地元の方々からの評判は大変良く喜ばれています。

学生の声

高野 美優 さん
(環境科学部 環境生態学科 3年生)

地域活動を通じて、地域の人をはじめさまざまな人と交流できただけでなく、竹林整備で伐採した竹の活用方法を新たに見いだすことができました。竹林整備活動では多くの人に参加してもらうことができました。今後は竹林GAKUの活動の発信と竹林整備活動をさらに進めていきたいです。



未来看護塾

活動開始年：2004年

メンバー：248名

活動場所：学内／彦根市内の学校や施設

関係団体：彦根市立病院／NPO法人ぼぼハウス 他



地域に住む方に健康と福祉を！

地域の人々とともにより良く生きていくことを目指しています。医療現場や地域で働く看護職、ボランティアの人たちとの交流や健康支援活動を通じて、心も身体も健康にその人らしく生きることを志向するとともに「未来の看護のあり方」を考えています。

地域の声

ツリーハウス 主催 森 亜由美 さん

健康に関するチラシを丁寧に作ってくださり、一軒一軒一緒に訪問してくださる事で団地内の方と、顔を合わせてご様子を聞かせていただくことが出来ました。集会所では、多世代での交流会でも楽しい時間を共有していただきました。今後も、医療福祉を身近に多世代の交流から孤立しない居場所を学生さんとともに作り上げていけたらと想っています。引き続き助言やご意見を聞かせてもらえたらと思います。

学生の声

柴田 一花 さん
(人間看護学部 人間看護学科 3年生)

ツリーハウスさんには、今年度よりお誘いをいただき、参加させていただきました。実際に、その地域に住んでおられる方と交流をさせていただいたり、普段は出来ないお家訪問などもさせていただきました。感染症の流行に伴い、なかなか直接会って話すことが厳しかった中で、参加させていただき、コミュニケーションを取ることの楽しさを地域の方と共有出来たと思います。



「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに「地域に根差し、地域に学び、地域に貢献する」「人が育つ大学」として独自の教育活動を展開してきた滋賀県立大学。開学以来、持続可能な暮らしにつながる知恵や技法を地域から学び、探究してきました。これらの取組は、今日のSDGsの理念につながる取組でもあります。「地域貢献大学のリーディングモデル」を目指し、持続可能な社会の実現に向けて、ともに学び、育ち、未来を切り拓く拠点でありたいと願っています。



▶ SDGs宣言

世界および地域の持続的な発展に貢献することを目指し、2018年6月に「滋賀県立大学SDGs宣言」を行い、大学のSDGsにかかる取組姿勢を対外的に発信しました。



滋賀県立大学SDGs宣言

- S | 滋賀県立大学は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに
- D | 誰一人取り残さない持続可能な社会を目指す
- G | グローカルな思考と実践をもって
- s | 世界と地域の発展に貢献します

▶ 地域教育プログラム

本学では、地域課題に応える「未来志向の変革力を身につけた人材」を育成するため、教員や地域人(※)の方による地域教育プログラムを実施しています。高い専門性を身につけ、俯瞰的に物事を見る能力はもちろんのこと、地域での実践を通して現実に起こっている諸問題に創造的に取り組み、変革する能力と態度を養っています。

全学生が学ぶ地域基礎科目「地域共生論」

1年次の全学部生対象の必修科目で、環境科学部、工学部、人間文化学部、人間看護学部の約600人の学生が学部の枠を超えて一緒に学びます。各学部から提供されるテーマについて学生がグループワークを通じ、SDGsの視点を交えて考えるとともに、他者を理解し、共感と豊かな対話を可能とするコミュニケーション力を養成します。



夏期集中講義「SDGsと滋賀のグローバル・イノベーション」

琵琶湖を守り、環境・社会・経済の調和を大切にする滋賀の暮らしをもとに県内複数大学の学生がともにSDGsを学ぶ単位互換科目です。

※地域人：地域活動の実践者で大学の地域教育プログラム履修者に対して指導・助言などを行っていただく方々

▶ キャンパスSDGsびわ湖大会

2022年11月5日から11日までの1週間を大会期間として、「キャンパスSDGsびわ湖大会2022」を開催しました。基調講演では千葉エコ・エネルギー(株)の馬上文司さんをゲストにお迎えし、脱炭素や地球温暖化の課題に大学が取り組む意義やその実例などを紹介いただきました。その他、地域でSDGsを意識しながら仕事や活動に取り組んでいる方のお話を聴いたり、映画上映会を開催して感想や意見を交わしたりしながら、SDGsを考える機会となりました。



パネルディスカッション(右から馬上文司さん、秋山先生、白木先生)

映画上映会「HAFU」感想共有の時間

▶ SDGs連続講座

2022年9-10月に(有)ガイアコミュニティの風かおるさんを講師として、びわ湖東北部地域(彦根市、米原市、長浜市)から始める「次の一歩を踏み出すためのSDGs連続講座」(全3回)を開催しました。SDGsが目標とする持続可能な未来に向かうためには大きな変容(トランスフォーム)が必要です。一人ひとりのあり方「being」から個々の持つ才能・可能性を生かし、自分達のルールや仕組みの枠を超えた新たな進化について考えました。



SDGs連続講座の様子 @長浜カイコー(長浜市)

▶ 近江楽座

近江楽座では、それぞれの学生団体が地域課題の解決を目指して自主的に活動しています。SDGsのゴールとも関係のあるテーマをもち、地域の人たちと一緒に持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいます。



▶ SDGs出前講座

県内外の行政機関や教育機関、企業などから要望を受けて、学内教職員を講師として派遣し、講演やワークショップを実施しました。



びわ湖東北部地域連携協議会「近江でのSDGsの実践」@米原市役所



滋賀県立彦根翔西館高等学校(彦根市)

SDGs達成に向けて

近江楽座専門委員会 委員長 印南 比呂志(人間文化学部生活デザイン学科 教授)

これからの社会を持続可能にしていくために、学生の皆さんがアクターとして地域に入るとともに多くの課題に向き合っていくことを、滋賀県立大学は全面的にバックアップします。その中で、学び、地域を支える視座を持ち、社会への橋渡しを担う人材として育てていくことを期待しています。本冊子で紹介した近江楽座の活動は学生と地域をつなぐ学びの場づくりなのです。



近江楽座キャラクター
メイミー